

淨土

五月號



法然上人鑽仰會發行

昭和十年五月廿日第三種郵便物認可(每月一回)一日發行
昭和二十二年四月廿日印刷納本昭和二十二年五月一日發行

第十三卷

第五號

法然上人を憶ふ

増田孝一

日本人は自信を失つたのであらうか。道徳的責任が強く、潔癖であるなどと、すぐれた特性を有してゐたはずの日本人が、敗戦この方の轉落ぶりはどうであらう。道義は地におち、街は不潔によこれ、闇の女は巷にみちてゐる。同じ民族とは思へないのである。戦後の頽廢はこの國にも現はれてゐる、日本だけのことではないと、見すごしていゝものであらうか。

かつて知らなかつた敗戦という痛苦によつて、すつかり自信を失ひ心の平衡をなくした人々の自嘲の現れだと思ふ。しかし、日本人にほんとの自信といふものがあつたであらうか。

×

最近の話であるが、進駐軍の人たちが日本の活花や茶の湯に非常な興味をもちはじめ實際に教はつてゐる内に

佛教の教へに心ひかれるようになったといふ話を聞いた。また、戦後の混亂に乗じて、そのすぐれた文化的遺産や美德を日本人自身がふみにじりはしないかと心から憂へてゐる外人もあるといふことである。

日本人は戦ひにやぶれた結果、あまりにも卑屈になり自己を過小視してゐる。戦争中、弱小國に對してあれほど優秀性を誇り威壓的であつた民族にしては、餘りにもじめな豹變ぶりである。鬼畜のやうな慘虐な戦争をしながら、一たび軍門にくだれば、うす氣味悪いほどおとなしく進駐軍を國內へ迎へ入れる民族である。今までの猪突性からある種の抵抗を豫測してゐた進駐軍の將兵は上陸當初、期待はずれの感をいだいたといふ事であるが考へれば考へるほど、激しい變り方である。

×

かうした豹變は、一見すこぶる奇異に見える。不思議ですらある。しかしよく考へてみると、さうならざるを得ない本質的なものが、民族の中にあることに思ひあたりはしないか。

強者にへつらひ弱者にから威張りする心情は、日本人が身につけている封建的性格ではないか。大名の下に嚴然たる階級を分ち、上の者は下の者へ威壓的に君臨し、下の者は上の者に絶対服従せしめる封建制は、そのどうにもならない強さのために「長いものにはまかれろ」といつた、自己犠牲とへつらひの非民主的な性格を、日本人の中に形作つてしまつた。自己の正しい意見の開陳などは思ひもよらないことで、正しいものゝ見方、正しい考へ方は失はれてしまつた。明治に一新されても官僚は封建時代の大名や武士と同じで、國民に強い権利をもち國民は國民でこれに絶対服従したのである。自由民權思想も官憲の彈壓に抑へられてしまつた。日本の官僚制度が民主化しなかつたのは、封建制が完全に拂拭されなかつたからである。

大正から昭和へと時代はすゝみ、政黨、財閥、軍閥と時の權力者は變つても、上は命令するもの、下は服従するものといふ考へ方は、變らなかつた。不満はあつても

國民はじつと耐え忍ばねばならなかつた。そして、その結果は今度の大戰をひきおこしてしまつた。國民をがむしやらに戦争に突入せしめた軍閥は、もちろん悪いが、それを正しい眼で批判と戦争を防止し得なかつた我々國民にも大きな責任がある。一部の目覺めた人々の中には反戰的思想をいだいてゐた人もあつたが、軍部の彈壓と盲目的な國民大半の追従のため、それを堂々と主張することができず、一片の反戰運動さへおこらなかつた。誤れる指導層に對する國民の追隨、こゝに日本今日の悲劇の原因があつた。要するに各個人が自信を有しなかつたからである。

x

過日行はれた佛教、キリスト教、神道の三教代表者によつて開かれた「宗教平和會議」は

『いづれの宗教も平和を本領とせざるものなきに拘らずわれ等は昭和六年九月滿洲事變以來の好戰的風潮を阻止することができず、悲慘なる今次戦争の渦中に捲きこまれたことは、神佛に對し、祖國に對し、かつは世界の全人類に對し、懺悔に堪えないところである』と冒頭した懺悔の表明で會議の幕をきつておとした。徒

らに他を誹謗し、戦犯者を究明することに没頭してゐる日本人にとつて、正に頂門の一針である。自らの罪を自覺し、その悔い改めを率直に表明したところに、正しい民主化を希求する眞實の叫びがうかがへる。

懺悔こそ自己を知る第一歩である。日本人は先づ自己を知らねばならない。過去の過ちは自己の無知に根ざしてゐた。自己を知らなかつたが故に、外部の力にひきずられて、悲境におちこんだのである。自己を知らずして他人をのゝしる者は、また他の力に盲目的にひきずられるものである。徒らに自己を忘れて模倣に吸々たる日本人がいかに多いことか。自國の中の美しさをふみにじつて、たゞうはべだけ外國を模倣することは、民主化の大きな障害である。しつかり自己を把握し、自分の國をよく知る者のみが、眞に外國のよさを知り、世界の民主化に貢献し、世界平和の建設に協力し得るのである。

日本の民主化のために、私たちは先づ自己を知らねばならない。自己を知らずして、どうして責任を感じ権利を主張することができよう。ソクラテスは「汝自身を知れ」と人々に説いた。自己を知ることが一切の出發點であるからである。日本の再建にあつて、最も必要なことは、各人が自己を反省して過去の過ちを懺悔し、再生することであらねばならない。その爲には謙虚に、迷妄にとらはれた自己を殺すだけの度量が必要である。この

自己否定をとほしてこそ、何事にもゆるがない、ただけしい正しい自己肯定が生れてくる。

×

私は宗教については殆んど無知識である。しかし、一切の人間の知識や榮譽をなげうつて、たゞひたすら阿彌陀佛に歸投せられた法然上人こそ、日本が世界に誇つていゝ偉人として渴仰してゐる。智慧第一の法然房とうたはれ、玲瓏玉のごとき人格であつた法然上人が、十惡五逆の罪を悲しみ、一文不知の尼入道と同じうして、佛に南無せられた、あの敬虔さ、そして彌陀の慈悲の光りによつて新らしく確立された不壞の人格、このこと言はんずばと死刑も恐れなかつた強い信念、私はこゝに人生の有難い秘奥を見る。眞實の人間性に目ざめたけだかい人格にうたれる。

自己の再生、それは結局宗教的自覺なくしては得られない。今日の民主化も宗教の裏づけなくしては、その目的を達成することはできないであらう。私たちはその意味で、法然上人の教へが今日ほど重要性を有してゐる時はないと思ふ。その興隆を心から願ふと共に、過去の日本が有した平和的な文化的なすぐれたものは、この際も一度スポットライトをあびせ、世界に誇らねばならぬいと痛感する。外國の形式だけを早急に學ぶより、よつほど世界平和に貢献する道だからである。

せまい家庭菜園であつても、畠作りをしてみると、自然の有難さや恐ろしさが、しみじみ感じられる。素人の骨惜しみで、肥料も手入れも不十分なのに、種をまいておけば、いつしか花が咲き實がみのつて

乏しい食膳を飾つてくれる。土の中にひそむ、ものをはぐくむ力の偉大さにおどろくとともに、その底しれぬ愛に感謝の念が湧く。母が大地になぞえられるのも當然である。太陽、雨などの自然現象に強い關心をよせ、その變化に或は愛を見、或は怒りを觀取するようになったのも、畠作りの恩恵である。今年

は五月になつてから霜がおりた。

やつと出たやわらかい馬鈴薯の芽

は一朝にしてまつくろくしなびて

しまつた。豆や南瓜などは蒔きかえねばならない。自然の冷たさに輕

い怒りを感じながらも、試煉を興えられているような嚴肅な氣持も湧

く。そして、自分の丹誠が微塵にふみにじられた一時の憤りもやがて

消えうせて自然に隨順しようする謙虚な氣持になるのである。

私は人事をつくして天命を待つといつた、つゝましい宗教的な農民

の心境を思ふ。農家ほと祭りの多いところはあるまい。祈願祭、豊年

祭、すべて自然に對する感謝や恐怖に結びついてゐる。自然との調和

の中に、自己の喜怒哀樂を現す彼等が羨しくもある。そこには都會人に見るづるさがない。狡智がない。自然に隨順する純朴さがある。自然の中にそだつた彼等の特權である。

出勤前の一とき、畑におりたつことは、このあくせくした世の中における、私の唯一の楽しみである。土をいじり、こやしをやつてゐると、一切のことを忘れてしまふ。やつと出たやわらかい芽には、惻々たる愛情がわく。みのつた莢豌豆やそら豆をもいであると、無限の感謝につままれる。時間の經過など

頭からきえてしまつて、無心の境

界に遊ぶのである。一切の世の中

のわずらはしさから解放されるこ

隨想

畠作り

松本行榮

の一ときこそ、ほんとに生れたまゝの童心にたちかへるのである。私はそれが嬉しい。愛や感謝の純な氣持もまだ失はれてゐない。收穫物を手に下げて歸る道、私はよくそんなことを口ごもるのである。

せまい畠であつても、直接大自然に結ばれてゐる。自然の目に見え

ない力が、私の心をやはらげ温めてくれるのであらうか。そしてこの

謙虚な氣持は、日常生活の中に宗教的な自覺をもたらず機縁ではない

だらうか。

信仰相談

閨商賣は信仰上いけませんか

擔相 中 村 辨 康

(問)

五濁惡世とはこの世のことを言つたものでありませうか、正直にして居

りましたら生活することすら出来ない世の中です。私共は初めの内は持つて居る着物を賣つてはお米や食糧品を買つて喰べて居りましたが、もうそれもなくなりましたから止むを得ず子供と一緒に田舎へ行つて色々なものを買つて来ては若干儲けて居ります。出征した主人からはまだ何のたよりもありません。もう生きては居ないのかとも思ひますが、それでもとたよりの來るのを待つて居る有様でございます。然し近頃では閨屋が商賣のやうになつてしまいました。これでも信仰の道にもとることはいないでせうか。と云つて閨屋をやめれば親子二人が喰べて行かれませんかからもうやめられませんか。何うしたらよろしいでせうか。お教へ下さいまし。

(東京・太田區・悩める女)

(答)

御尤もなことで何共申上げやうもありません。道義の上から云へば閨商

賣のいけないことは分り切つたことで、國情とは云へ一々だれにも尤もな事情があるのですから、それを是認して居た日には切りも際限もなく道徳もありません。と云つて國情や制度の上で直すべきものであつて、一人の力でどうしやうもありませんから喰べて行く爲には止むを得ないとも云へませう。何か適當の職業が見つければよろしいのですけれども失業者の多い時代にそれも容易なことではありません。承るところに依りますと、このインフレ状態も長いことではなくもう半年もたつとデフレの状態になるのではないかと云はれて居ります。その時閨屋をして居た人は一邊に途がふさがつてそれこそ手も足も出なくなりすから、インフレでお困りになつた以上にお困りにならねばなりません。ですから今から覺悟して置かないとその時になつて

飛んだことになります。ですから段々閨屋を

やめて何か小商賣でもやられるか、又は何處かへおつとめになられては如何でせうか。お子さんがお幾つになるか分りませんから、つとめ得る事情かどうか知りませんが、若しお子さんが小さくて會社とか勞働とかに勤めることが出来なければ、何處かの託兒所へたのむとか又は情けある處へ女中にでも置いて貰ふとか又はお菓子のやうなものを問屋からうけて配給して歩くとかしてハツキリした生活を工夫するやうになすつては如何でせうか、私の知つて居る方でそんなことをして生活して居られる人も居られます。血眼になつて一生懸命に探し求めれば何かあると思ひます。慾を出さないで喰べるだけでよいと思つて今から心掛けられたいものです。次に閨屋をやらなければ生活の出来ないことに就ての信仰上での考へ方についてお質ねですから、若干申上げて見ますならば、聖道

門流の考へからでは無論絶対に許しません。然し浄土門ではさう一概に頭から叱りつけは致しません。つまりは慈悲中心のものだからです。好きこのんでやられるのは無論いけませんけれども、お時勢がさうさせた止むを得ないことですから、泣き／＼悪いと知りながら、もうしななければ喰べて行けないから「これも浮世の習ひ」と一應は許して頂けるであらうかとも存じます。或人が法然上人に「酒のむは如何」とお尋ねした時、上人は「まことはのむべくもなければども浮世の習ひ」と答へられたさうであります。それと同じことと一應は許されませう。然し今に闇屋やブローカーは出来なくなりすから、今は止むを得ずやつて居るとしても一日も早く足を洗つて正しい業務で生活するやうになさるのが却つて利好です。それでは今のうちに出来るだけお金をためて置いてデフ・シヨンの時の準備をしてはとお考へになるかも知れませんが、それは駄目でせう。何れ程たまるものでせうか、もうあと半年ではその準備はおそいのですし、それに物質的な考へは必ず敗れます。それよりも身體へ職をつけ身體で金をうみ出す工夫をしなければいけません。何と云つても貴いのは業務です。業務で金をうみ業

務で生活を保證させなくては永遠の事ではありませぬ。それ故今からその準備をなさるのが一番よろしいと存じます。信仰上のことは唯だ「念佛の申されんやうに過ぐべし」と法然上人の云はれたことをシツカリ金科玉條となさつたらよろしいと存じます。如何でせうか。お分りになりましたでせうか。

信仰の力で

金原春子

「浄土」十二月號の「信仰と生活」有難く拜讀させていたゞきました。普通の事と考へてゐたことが、宗教的な見方で見直してみます

と、間違つてゐる事が澤山あることに氣付かせていたゞきました。でも長くしみついた生活の垢とでも申しませうか、それを少しづつからくも洗ひ落してゆくことは容易ならぬことのやうに思はれ、考へますと勇氣を失ひさうな弱い氣になつてしまひます。併し自分にはこのふらふらした足許を信仰によつてしつかりと踏みしめる力を得るよりほかに是から先を力強く生きてゆける望みがないように思はれます。何か強くひつばられてゆきたいこのまゝでいては深い水底に沈んでしまひさうだ、そんな氣持でございます。何卒よろしくお導き下さいませ。

編輯室から

▲紙の割當がなかつたため長い間減頁を斷行して誠に粗末なものを發行して來ましたが、今度愈々配給の割當切符が發行され、近く現物化されることになりました。紙を手に見ないと分りませんが、舊に復する見透しはついたわけです。これを機会に次號の六月號は特輯號とし内容體裁共に一新したいと思つてゐます。

▲出版界は全く想像以上の苦しさで毎月雑誌を發行することは一通りの苦勞ではありません、その上會員は所期の目標に達せず各方面の後援によつて何とか切りぬけてゐる現況です。どうか一人でも多く會員を獲得していたゞきたく願ひいたします。

▲來月からその月内に發行出来るようになりしました。遅々たる進みですが、これでやつと雑誌になることができるのです。少しづつでも進歩向上してゆく「浄土」をお喜び下さい。御支援を切望します。

男女同権

男女同権を鬼の首をとつたやうにふりまはす或る評論家が、奥さんを叱りつけています。

靴下の洗つたのはないのか

すみません、昨日は

いろんな配給が一日に

あつたもんですから

...

馬鹿野郎!

その時でした。先日録

音した主人の放送が、

隣りの家から聞えてき

ました。

男女同権の世の中です。靴下や

禪の洗濯ぐらいは男がやるべきで

す。

値下げ運動

お父さんいまがチャンスだよ

なにがさ.....

「きまつてるじゃないか、グローブだよ。値下げ運動がおこつてるから、絶好のチャンスだよ。ねえ買つてよ。ぐずぐずしていると又値があがつて、チャンスを逸しちまふよ。」

ユーモア車掌

野球狂の坊やが理ずめの投球で必死に攻めたてます。おやぢ懐と相談して思案投首、どうやら苦しい見おくり三振らしいです。

ファンといふ者は型どおりの呼

出しでは、なかなか歸宅しない厄

介な代物です。六大學野球華やか

ファンといふ者

なりし頃は「お宅が火事です」と

か「お産がありました」とかいふ

ふるつたのがありました。職業

野球の殿堂、後樂園スタジアムで

は最近こんな呼出しがありました

「風でバラツクの屋根をとばされ

ました。すぐ歸つて下さい」

「おばあさんが買出して大怪我を

されたさうです。至急お歸り下さ

さい」

奥さんが強盗にやられて生命危

へ進んでゆきましたとさ。

乗客は笑ひながらおとなしく奥

へ進んでゆきましたとさ。

さあ

「さあ乗つたらさうつと奥へ、乗

物の不便な時にわざわざいらつし

つて、玄關ではあんまりでせう。

遠慮なさらずどうぞ奥へ、さあ、

さあ

乗客は笑ひながらおとなしく奥

へ進んでゆきましたとさ。

さあ

「さあ乗つたらさうつと奥へ、乗

物の不便な時にわざわざいらつし

つて、玄關ではあんまりでせう。

遠慮なさらずどうぞ奥へ、さあ、

さあ

乗客は笑ひながらおとなしく奥

へ進んでゆきましたとさ。

「浄土」 五月號

昭和十年五月二十日

第三種郵便物認可

昭和廿二年 四月二十日印刷

昭和廿二年 五月一日發行

(定價三圓)

東京都芝區芝公園浄土宗務所

編集兼 眞野 正 順

發行人 眞野 正 順

印刷所 共立社印刷所

配給元

日本出版配給株式会社

發行所 法然上人鑽仰會

東京都芝區芝公園浄土宗務所

振替東京 八二一八七番

會員番號 B-108014

會費 金 三十六圓

(別に送料六圓)

振替拂込みは手数料一圓五十錢増のこと

定價金 三圓 (送料五十錢)

昭和十年五月廿日第三種郵便物認可 (毎月一回一日發行)
昭和二十二年四月廿日印刷納本 昭和二十二年五月一日發行

浄土 第十三卷 第五號